

令和5年度  
益城町社会福祉協議会  
事業報告書

社会福祉法人

益城町社会福祉協議会

# 令和5年度益城町社会福祉協議会事業報告書

## 目次

総括	P 1
<b>I. 支え合いとつながりを大切にされた地域づくり</b>	
1. 地域包括ケアの推進と深化	P 2
2. 民生委員・児童委員等と連携した見守り活動	P 3
3. 障がいの理解促進等のための交流会や啓発の実施	P 5
4. 福祉ワークショップの開催	P 5
5. 地域での子育ての推進	P 5
6. 地域コミュニティ支援の充実	P 6
7. 「地域の縁がわ」事業の推進	P 6
8. 交流機会の推進	P 6
9. ボランティア人材の募集と養成	P 7
10. 学校と連携したボランティア活動の推進	P 8
11. ボランティア活動の支援	P 8
12. 地域福祉まつりの開催	P 9
<b>II. 安心していきいきと暮らし、活躍できる地域づくり</b>	
13. 地域活性化のための課題の把握	P 10
14. 地域行事の開催支援	P 10
15. 地域サロンの推進	P 10
16. 地域サロンサポーター養成講座の開催	P 14
17. 支え合いの仕組みと活躍の場の提供	P 14
18. 地域福祉合同研修の実施	P 14
19. 福祉体験学習の実施	P 14
20. 高齢者の活躍支援	P 15
21. 地域防災力の強化	P 19
22. 災害ボランティアセンター	P 19
23. 社協活動の広報	P 19
<b>III. 困りごとを見過ごさない地域づくり</b>	
24. コミュニティソーシャルワーカー配置事業の実施	P 20
25. 福祉相談の充実	P 25
26. 相談体制強化に向けた連携	P 27
27. 見守り体制の充実	P 27
28. 認知症に関する地域支援	P 27
29. 介護に関する福祉サービスの充実	P 30
30. 成年後見・市民後見等の検討	P 32
31. 生活困窮者への支援	P 32
32. 福祉関係団体事務局への協力、事業所との連携	P 33
33. 町や地域の多様な主体との連携強化	P 34
34. 関係団体への活動支援	P 34
<b>IV. 社会福祉協議会の体制整備</b>	
1. 社協体制の強化	P 34
2. 財政基盤の強化	P 36

# 令和5年度 益城町社会福祉協議会事業報告書

## 総 括

平成28年熊本地震から8年が経過する中、県道4車線化工事、土地区画整理事業等の公共工事が進み、住民の自宅再建先や災害公営住宅等での落ち着いた生活が戻り、また、新型コロナウイルス感染症においても5類に引き下げられたことで、各関係機関、団体、行政等との協力のもと、徐々に対面での各事業を実施することができました。

具体的には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施されたコロナ特例貸付世帯に対し償還が開始されましたが、対象世帯への現在の生活状況等のアンケート実施や架電、面談を行えたことで、必要に応じた償還猶予、免除の手続きや次の施策等への寄り添った支援を行うことができました。

また、今年度より本事業に移行した重層的支援体制整備事業では、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)を中心としたアウトリーチを通じた継続的支援に取り組み、被災に伴い表面化したひきこもり世帯への相談支援の継続や多様化・複合化した課題に対し、横断的な支援体制づくりの実現に向け、行政や関係機関等との連携強化に努めることができました。

地域コミュニティづくりでは、生活支援コーディネーター(SC)、地域サロンコーディネーター(ASC)、認知症地域支援推進員を中心に主催事業や講座の開催、地域サロン、関係団体等との会議を対面で一同に行うことにより、地域で活躍できる場の提供や、地域見守り活動の把握及び情報の共有化をより深めることができました。

シルバー人材センター事業では、会員が長年培ってきた知識、技能、経験を活かして、町民や企業等の依頼に就業を通じて役割を発揮することができました。また、多様な依頼に対応できるよう、現会員をモデルとした会員募集のポスター作成や広報まじきを通じての周知を行うことで、会員増になげることができました。

最後に、「未来に向かって 地域で支え合う 福祉のまち益城」を基本理念とした第4期益城町地域福祉計画・地域福祉活動計画(令和5年度～令和9年度)に沿って、今後も社会福祉協議会の使命である住民が主体となる地域福祉推進のために、子どもから高齢者までが住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、福祉のまちづくりを目指し役割を果たしてまいります。

# 1. 支え合いとつながりを大切にした地域づくり

## 【地域共生社会の実現に向けて】

### 1. 地域包括ケアの推進と深化

益城町では、全世帯を対象とした地域包括ケアを推進しています。従来の課題の他に、8050問題、ヤングケアラー、一人暮らし高齢者、障がい者、子ども等の課題が確認されており、生活ニーズの把握や地域支援とのマッチング等、より深化した取り組みを行いました。

#### (1) 多職種連携・地域ケア会議

定期的に開催される多職種連携会議への参加を通じて、社会資源及び関係機関・団体の活動を把握し、地域や個別の課題解決支援に活かしました。また、地域ケア会議に参加し、多職種と協働し自立支援や生活の質の向上などの支援の充実に努め、介護支援専門員等へ地域資源の活用等の提案を行いました。

#### (2) 生活困窮者自立支援事業

総合相談窓口として住民の困りごとを傾聴し、一人ひとりに寄り添った支援を実施しました。相談に来所できない人、ひきこもり等の課題を抱えている人に対しては、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)や他機関との連携を通じてアウトリーチ支援を包括的に実施しました。

また、上下益城圏域(御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町、美里町)の6町で支援調整会議を開催し、相談支援、プラン作成等を行いました。コロナ禍以前の生活に戻れていない世帯も多く、生活維持が困難な世帯へ家計改善支援事業での支援や体制強化事業を実施しました。

・相談件数:90件

相談内容	生活	仕事	住まい	子ども(家庭)	その他	合計(件)
件数	36	9	17	6	22	90

(前年度85件:生活56件、仕事12件、住まい11件、子ども(家庭)6件)

・事業への同意者数:15件

(前年度:15件)

・プラン作成数:16件

(前年度:23件)

・住居確保給付金:1件

(前年度:3件)

・支援調整会議開催回数:12回 案件 92件

(前年度:11回 案件 80件)

コロナ禍の影響及び仕事の減少等で生活に困っている方や物価高騰の影響を受け生活に困っている方の相談対応を行いました。

・緊急一時支援事業(食費支援、公共料金、病院代、交通費支払い等):4世帯

・緊急一時支援事業(物資支援):19世帯

共同募金会の「生活困窮者への緊急支援活動助成事業」を活用し、生活福祉資金コロナ特例貸付の償還対象世帯へ郵送で物資配布を行いました。

・支援世帯:250世帯

・配布物資:町指定可燃ごみ袋

### **(3)生活支援コーディネーター（SC）**

高齢者を含む地域住民が、住み慣れた地域で生きがいを持って生活を継続していくために、住民主体の生活支援サービスの開発へ向けて協議体や講座の開催をしました。また、見守りや交流の場、居場所づくりなど「つながり」のある地域づくりや社会参加の推進を行いました。

#### ①地域活動の担い手づくり

地域福祉活動の担い手育成を目的に地域福祉塾を開催しました。

※9. ボランティア人材の募集と養成(2)①に掲載

#### ②ニーズと地域資源のマッチング及び新たな福祉サービスの創出

- ・子どもや子育て世代の支援活動 ・健康麻雀 ・みんなで踊ろう盆踊り
- ・1人暮らし高齢者お話し相手ボランティア ・お出かけ支援隊（活動地域拡大）
- ・傾聴ボランティア(サービス付き高齢者住宅)

#### ③属性ごとの居場所づくり

地域食堂の開催支援（担い手マッチングと運営補助）

#### ④体制整備を推進するための協議体の開催及び運営

1月23日 13:30～ 役場2階 会議室

第1層協議体開催「地域資源の共有と連携」について情報共有と意見交換

#### ⑤日常生活圏域で活動する第2層生活支援コーディネーターとの協働

第2層協議体参加支援 2回

田原地区地域食堂支援 9月17日(日) 9時～

#### ⑥他支援機関等との連携 ケア会議・研修会・県内SC意見交換会・情報共有会議

### **(4)見守りネットワーク推進の支援**

支援対象者を中心に、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員による訪問活動を行いました。また、必要に応じて関係機関等と連携し、見守り体制の充実に努めました。

### **(5)困難事例への対応**

生活困窮者自立支援事業、ひきこもり相談窓口、総合相談窓口として、住民の課題解決に努めました。社協単独での課題解決が難しいケースもあり、8050問題の対象者を熊本県ヤングケアラー相談支援センターと情報共有しました。課題のある若い方に対しては、県子ども・若者総合相談センターと連携し支援に入りました。他機関連携を通じて包括的な支援を実施しました。

## **2. 民生委員・児童委員等と連携した見守り活動**

一人暮らし高齢者、在宅介護者、要支援者等の生活課題を抱えている個人・世帯の実態把握を行いました。

### **(1)見守り活動の支援**

各種団体での例会等で地域見守り活動の啓発や協力要請を進めました。また、民生委員児童委員協議会の協力を得て、一人暮らし高齢者世帯や在宅介護者及び要介護世帯の実態調査を行いました。

① 高齢者世帯の実態調査(65歳以上一人暮らし)

(第1回 調査時期:4月)

(前年度:714名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
73	163	180	186	61	79	742

(第2回 調査時期:9月)

(前年度:706名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
71	162	182	195	63	75	748

② 在宅介護者及び要介護世帯の実態調査

(第1回:調査時期6月)

(前年度:203世帯)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(世帯)
23	34	34	61	10	45	207

(第2回:調査時期10月)

(前年度:200世帯)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(世帯)
19	40	33	60	8	49	209

**(2) 高齢者相談・地域福祉委員**

高齢者やその家族が抱えている多くの悩みや課題に対し、高齢者相談・地域福祉委員の見守りや訪問活動を通じて高齢者福祉の推進を図り、スキルアップを目的に例会を4回開催し、研修や情報共有を行いました。また高齢者相談・地域福祉委員の任期満了に伴い、新たに新任の方への研修を行いました。

開催日:6月1日(木) 第1回例会

内容:地域で元気な生活を続けるための介護保険「きょういく・きょうよう」のススメ

講師 町役場健康保険課 保健事業係 大賀 完氏

8月29日(火) 第2回例会

内容:高齢者相談・地域福祉委員退任式 (任期満了に伴う)

35名へ感謝状交付

9月1日(金) 就任式 34名就任

内容:社協事業、活動等について説明

11月22日(水) 第3回例会

内容:再任の方より、活動状況の発表

活動報告書の書き方について説明

3月7日(木) 第4回例会

内容:地域包括支援センターの業務と役割について

講師 町東部圏域地域包括支援センター 鶴上勝規氏

町西部圏域地域包括支援センター 吉住慶太氏

・西部、東部に分かれて見守り活動を通じて意見交換

定数38名に対し、5地区不在のため区長、民生委員・児童委員等へ電話や同行訪問等を行い、令和6年4月から2地区就任予定。

### **(3) 関係機関の情報共有会**

1月に民生委員・児童委員協議会の総務会と事務局長、次長、課長、係長出席のもと、事業等についての話し合い、情報共有を行いました。

## **3. 障がいの理解促進等のための交流会や啓発の実施**

地域での障がい者への理解やノーマライゼーションの推進を目的として、福祉団体親善スポーツ大会や福祉体験学習(車椅子や高齢者疑似体験等)を行いました。また、障がい関連事業所等での地域住民との交流を行いました。

### **(1) 福祉団体親善スポーツ大会**

地域で活動している各福祉団体の交流と障がい者の社会参加の促進、社協と各福祉団体との連携強化、見守りを目的に開催し、多くの団体が交流し、顔合わせを行うことができました。

2月6日(火) 場所:益城町総合体育館メインアリーナ 内容:スカットボール

参加団体:11団体 116名

身体障害者福祉協会、老人クラブ連合会、民生委員・児童委員協議会、  
高齢者相談・地域福祉委員、グラウンドゴルフ協会、婦人会、区長会、  
益城町シルバー人材センター、チームボラサポ、地域サロン応援隊、  
益城町ボランティア連絡協議会

### **(2) 福祉体験学習**

希望する地域や学校に出向いて、福祉への意識を高めるために福祉体験(車椅子・高齢者疑似体験等)を行いました。また、次年度に向け、福祉教育の研修会等へ参加し、見識を深めました。

7月6日(木) 津森小学校4年生(16名) 内容:ふくしの話、車椅子の体験等

### **(3) ワークキャンプ**

※19.福祉体験学習の実施の(1)に掲載

## **4. 福祉ワークショップの開催**

地域の課題把握や情報共有の場として、福祉ワークショップを行政区別福祉座談会として継続的に開催しました。

### **(1) 福祉ワークショップ(福祉座談会)の開催**

※24.コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置事業の実施の(3)②に掲載

## **5. 地域での子育ての推進**

少子化、核家族化、ネット社会の進展により、自然との触れ合いや広場での子ども同士、親同士の交流の機会も少なく子育てを支える環境も大きく変化する中で、子育てを楽しくする方法や親子のスキップの方法を学び、不安を共有できる場を提供しました。

①7月7日(金) 参加者:5組 11名 7月21日(金) 参加者:4組 9名

場所:広崎公民館(広崎2町内公民館)

講師:一般社団法人ひのくにスマイルプロジェクト代表理事 茶木谷与和氏

内容:7日 イライラしない上手な伝え方のコツを学ぼう!「伝わりやすい指示の仕方」

- 21日 子どもをうまくほめるコツを学ぼう！「子どものほめ方・認め方」
- ②11月7日(火) 参加者:6組14名 11月21日(火) 参加者:9組22名  
 場所:益城町復興まちづくりセンター「にじいろ」  
 講師:株式会社トヨタ体育教室 代表取締役社長 豊田隆志氏  
 内容:7日 一人ひとり異なる発育・発達の状態に合わせた運動を学ぼう！  
 21日 子どもが自ら興味をもって運動を楽しむ方法を学ぼう！

## 【ふれあい・交流の充実に向けて】

### 6. 地域コミュニティ支援の充実

地域行事や研修会等の開催及び参加を通じて、社会福祉協議会職員と地域住民との顔見知りの関係をつくりました。

#### (1)福祉ワークショップ(福祉座談会)の開催

※24. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置事業の実施の(3)②に掲載

### 7. 「地域の縁がわ」事業の推進

地域のつながりを強化するために「地域の縁がわ」事業の紹介や先進事例の情報提供等を行いました。

- ・申請相談 手続き等の案内 1件

### 8. 交流機会の推進

#### (1)ふれあい交流会

新型コロナウイルス感染症の警戒レベルが5類に引き下げられた中で、民生委員・児童委員の協力を得て、町内に在住されている一人暮らし高齢者を招待し、外出の機会を提供する集合形式のイベントを実施しました。また、外出などが難しい方へ参加者同士の交流を図る心の交流を目的に、小学生等からのメッセージカードの配布を民生委員・児童委員の協力により実施しました。

##### ①第1回 ふれあい交流会(春)

メッセージカード配布

校区	飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
人数	73	163	180	186	61	79	742

##### ②第2回 ふれあい交流会(秋)

集合形式

校区別参加者	飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
対象者	3	18	26	21	8	5	81
民児協	4	13	10	9	2	5	43
合計	7	31	36	30	10	10	124

内容: 健康保険課 健康増進係による感染症予防の講座

- ・大村詠一先生の健康体操
- ・「みゆき&オートルズ」による演奏



日程 10月3日(火) 広安西、津森校区 益城町交流情報センターミナテラス  
 10月11日(水) 福田、広安校区 益城町保健福祉センターはびねす  
 10月31日(火) 木山、飯野校区 飯野分館

## (2) 福祉団体親善スポーツ大会の開催 (再掲)

## (3) 在宅介護者のつどい

在宅で介護をしている方を対象に、当事者同士の交流と介護から離れて気分転換することを目的に、意見交換会や講座等を開催しました。

(第1回) 6月29日(木) 益城町交流情報センターミナテラス 視聴覚室

実施内容: 介護教室「介護者が知っておきたい薬の知識」「補助食品について」  
 交流会「フルーツ&ホルンの演奏」「意見交換会」 (前年度:3名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
3	1	3	4	0	3	14

(第2回) 11月28日(火) 益城町総合体育館 会議室、実乃花にて

実施内容: 介護教室「介護の注意点～高齢者に起こりやすい事故・予防・手当」  
 交流会「食事懇親会」「意見交換会」 (前年度:14名)

飯野	広安西	広安	木山	福田	津森	合計(名)
3	4	2	4	1	1	15

## 【ボランティア活動の活性化に向けて】

### 9. ボランティア人材の募集と養成

地域で活動するボランティア人材の確保のために、地域福祉への理解促進や協力要請を行いました。また、各種ボランティア団体が実施している人材養成への支援、情報や機会の提供等を行いました。

#### (1) 情報・機会の提供

ボランティアや地域活動に興味関心のある方に対し、講座等情報の提供やまちづくり活動支援センター、ボランティア連絡協議会の紹介を行いました。

#### (2) 人材養成支援

##### ① 地域福祉塾

##### a. 地域福祉担い手養成講座

地域の現状と課題を理解し、地域福祉や制度を学び、地域の担い手(支え手)育成のため、地域福祉塾を開催しました。受講後は、「こんな活動あったらいいな～」計画に沿って塾生ごとに自分のできる地域福祉活動に取り組んでいただきました。

講座 1～10 講座 参加人数:14名

開催日	内容
7月26日(水)	【講座1】高齢者の地域見守り
8月3日(木)	【講座2】集いの場の必要性
8月23日(水)	【講座3】安心して暮らせる地域づくり
8月31日(木)	【講座4】介護保険制度
9月7日(木)	【講座5】認知症

9月13日(水)	【講座6】成年後見制度
9月20日(水)	【講座7】地域サロンの取り組み
10月5日(木)	【講座8】復興・地域のつながり
10月18日(水)	【講座9】
10月20日(金)	【講座10】

### b. 修了生へのワークショップ

地域活動につながるよう、修了生とのワークショップ・住民主体の活動団体との交流を行いました。

2月11日(日) 第2回地域づくりセミナー開催 (住民向けセミナー合同)

講演:「やねだん」に学べ! 講師:柳谷自治公民館長 豊重哲郎氏

活動発表:第1期生 益田八重子氏/第2期生 井上俊夫氏/第3期生 森田俊彦氏

### c. 活動支援

受講生の地域活動計画をもとに、活動グループの立ち上げ、活動とのマッチングなど継続的支援を行いました。また、地域食堂・男性の集いの場支援など修了生で支援する仕組みづくりを構築しました。

・ましきお出かけ支援隊 ボランティアによる高齢者の外出(買い物や通院)などのサポート  
活動地区拡大  
新規:畑中団地利用者2名 継続:田原第2団地4名

・おしゃべり相手ボランティア

・男のたまり場 男性の集いの場づくり「コーヒー教室」開催 参加者6名

・かるた大会(皆乗寺) ましき歌留多で多世代交流と文化財を広める

・ふれあい会 イベントや趣味の活動を通じて地域住民つながり・交流活動

・集まれ見守りボランティア 登下校見守りグループの交流活動

・みんなで踊ろう盆踊り 盆踊りを通じて地域での多世代交流

・地域食堂 はなえみ地域食堂支援

### d. 研修会

修了後の活動から見える地域課題等について、グループごとの会議や例会に参加し課題について意見交換を行いました。

## 10. 学校と連携したボランティア活動の推進

児童・生徒へのボランティア活動の意義や機会の提供のため、学校に出向きボランティア協力校の意義や目的を説明し、校内外でのボランティア活動の支援を行いました。

### (1) ボランティア協力校活動助成

町内の全て(7校)の小中学校をボランティア協力校として指定し、校内外のボランティア活動の充実を図るために助成を行いました。

## 11. ボランティア活動の支援

ボランティア活動推進のために、町内のボランティア活動団体を把握し、交流機会や情報交換できる場の提供を行いました。ボランティア育成については、今年度は開催できませんでした。

## (1) ボランティア情報発信及び保険事務

ボランティア保険取扱い事務

(内訳)

・活動保険(災害によるボランティア活動を含む)55件(524名)	(前年度:17件279名)
・行事用保険	90件(5,700名) (前年度:74件3,443)
・保険金請求手続き	1件 (前年度:0件)

## (2) まちづくり活動支援センターとの連携

定期的(月1回)に、まちづくり活動支援センターと情報共有を行い町内のボランティアの把握を行いました。

## (3) ボランティア連絡協議会の活動支援

- 5月26日(金):県ボランティア連絡協議会総会 参加
- 5月30日(火):町ボランティア連絡協議会理事会・総会 参加
- 10月11日(水):町ボランティア連絡協議会例会 参加
- 12月8日(金):県ボランティア連絡協議会理事会 参加
- 1月25日(木):町ボランティア連絡協議会例会 参加
- 3月5日(火):県ボランティア連絡協議会理事会 参加

## (4) ボランティア交流会

今後のボランティア活動の推進を図るために、第14回火の国ボランティアフェスティバル人吉球磨ブロック大会へ参加し、町内の福祉団体、ボランティア活動者とともにボランティア団体同士の情報交換と親睦を深めることが出来ました。

開催日:11月25日(土)

開催場所:人吉スポーツパレス 参加者:29名

## 12. 地域福祉まつり(社協まつり)の開催(※新規)

地域住民の福祉への理解と住民同士の連携及び各団体の連携を図ること、社会福祉への興味・関心を広めることを目的に社協まつりを開催しました。

日時:10月21日(土) 10時~14時

場所:保健福祉センターはびねす

参加者:約500名(来場者、協力団体、ボランティア、発表者)

### 【ステージ部門】

- ・オープニング くまモン隊
- ・地域活動発表(子ども防災士活動、ワークキャンプ体験、地域ボランティア活動、親子講座  
体験感想、赤ちゃんハイハイ競争)
- ・地域サロン活動報告 ・花架拳のダンス発表 ・ボランティア連絡協議会活動発表 ・シルバー人材センター活動報告

### 【展示、体験コーナー】

- ・老人クラブ連合会の昔遊び ・フラワーアレンジメント体験
- ・ボランティア連絡協議会のパネル展示

- ・たんぽぽ、和ごころ、ひまわりの手芸品展示・ふれあい交流メッセージカード展示
- ・地域福祉塾生・ボランティア連絡協議会・ボラサポ九州申請団体

#### 【飲食、販売コーナー】

- ・益城病院パンとカフェ販売・シルバー人材センター野菜販売・そよかぜ福祉作業所の販売
- 協力団体等:老人会・地域サロン代表者・益城病院・そよかぜ作業所・バルビー・昔なつかし隊

## II. 安心していきいきと暮らし、活躍できる地域づくり

### 【地域の活性化に向けて】

#### 1 3. 地域活性化のための課題の把握

様々な立場の人からの意見収集を通じて課題把握に努め、地域住民と一緒に課題解決に向けた取り組みを進めました。

##### (1) 各種団体会合への参加

各団体の会議等に参加し、意見交換や地域福祉推進の情報提供を行いました。

##### (2) 高齢者相談・地域福祉委員（再掲）

##### (3) 福祉ワークショップ（福祉座談会）の開催（再掲）

※24. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）配置事業の実施の（3）②に掲載

#### 1 4. 地域行事の開催支援

地域行事を通じて、地域コミュニティ活動や助成金活用の支援と物品の貸し出しを行いました。また、活動状況については、広報紙等を活用し情報発信を行いました。

##### (1) 助成事業の実施（共同募金配分金、日赤交付金）

###### ・小地域活動配分金の活用

行政区単位の地域に対し、令和4年度赤い羽根共同募金及び令和5年5月の日赤会費の実績に応じて小地域活動配分金を配分し、地域活性化の活動に活用していただきました。

小地域活動配分金額 共同募金:335,415円 日赤:328,570円(68行政区)

##### (2) レクリエーション用品等の貸し出し（社協備品含む）

地域のイベントや住民の方々の活動支援として、各種レクリエーション道具等の貸し出しを行い、自主的な活動へつなげることができました。

貸出先:地域サロン、学生ボランティア、老人クラブ、町内小学校、地域住民の活動等

種類:輪投げ25件、スカットボール20件、ポッチャ14件、脳トレパズル9件、

ターゲットゲーム2件、きみまるDVD2件、大型ジェンガ1件、ビーンボーリング1件、

つりっこ1件、ましき歌留多1件、マイク1件、炊飯器1件 計78件

#### 1 5. 地域サロンの推進（地域サロンコーディネーター（ASC）設置事業）

地域コミュニティ再生に向けた環境整備支援として、継続的に開催し、地域サロン活動の自立化に向けた支援や、未設置地域へのサロン普及に向けて地域の関係者と協力して実施しました。

## (1) 地域サロン運営支援 (61 地区 55 ヶ所)

### ① 地域サロン運営の相談対応

地域サロンの存続に関する相談や協力員として、区長や民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員のつながりができていない地区で話し合いの場を設け、運営について説明をしました。また、地域サロン交換ノートを活用し、サロン間の活動内容を情報共有しました。

### ② 地域サロン協力員の支援

地域サロン協力員交流会の開催や他サロンとの交流など、意見交換や情報共有の場づくりを行いました。また、地域サロン応援隊養成講座や他市町村とのふれあいサロン交流会も開催しました。

### ③ 開催状況把握と関係機関の調整

毎月のサロン開催内容と参加人数を各地域サロン代表者に確認し、子どもを含んだ多世代交流を行っているサロンや屋外サロンの情報、また、男性参加者が多い地域での声かけや募集の方法について各地域サロンに情報提供しました。更に地域サロンを支援するボランティア団体及び行政機関等の日程等調整を行い、サロン活動が充実するよう支援しました。

今年度の新規参加者は 45 名でした。

### ④ 保険の申請及び変更時の調整

サロン活動を安心して開催していただけるよう、ボランティア行事用保険に加入していただきました。また、地域の行事と重なり、日程の変更や中止等があり、新たな実施日と内容の変更等、ボランティア行事用保険の事務連絡調整を行いました。

また、今年度は活動中の事故が 2 件発生し、傷害保険金請求を行いました。

## (2) 地域サロン活性化支援

### ① 地域の福祉関係者(区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員等)からの相談及び情報共有

サロン活動の中で、地域で暮らす認知症の方の対応に関する相談や近隣トラブル、介護に関することについての相談など、地域の課題から個別の心配事などの情報を、各関係機関へつなぎました。

### ② 他市町村や地域の福祉事業所との情報共有

- ・7月18日(火) 合志市野々島コミュニティ地域福祉連絡協議会との意見交換会

場所:きやま座 参加者:12名

合志市野々島地区のサロン活動の様子、益城町の五楽しらゆり会、広崎4・5町内よつ葉会の代表者による活動発表を行い、コロナ禍の活動の様子や運営の方法、送迎や活動保険などについて意見交換できました。

- ・10月4日(水) 高森町視察(ケアトランポリン健康運動教室)

場所:高森町色見総合センター大会議室 参加者:8名

ケアトランポリン健康運動教室の実践と意見交換会を行いました。

- ・10月25日(水) 合志市高齢者サロン視察 場所:合志市老人憩の家 参加者:応援隊15名  
上須屋いきいきサロン見学後、サロンの役割や取組みなど意見交換を行いました。

- ・「みんなでツナグ益城の記憶」に地域サロンの推薦依頼あり→福富シラカシサロンを推薦。
- ・上益城地域振興局より益城のサロンを見学したいと依頼あり。→上小谷いてみろかい同行支援。

### ③地域サロン活性化を目的とした各関係者の交流会開催、申請と報告書作成の説明会開催

〈地域サロン協力員交流会〉

- ・9月28日(木) 場所:JAかみましき益城支所2階会議室 参加者:89名

内容:活動発表(3ヶ所) 赤井ひまわり会、安永3町内ふれあいサロン、田中茜会

- ・自分たちのサロンで使っているレクリエーションゲームの紹介および作品展示

〈地域サロン助成金申請及び報告書説明会〉

- ・3月1日(金) 場所:益城町保健福祉センターはびねす多目的室 参加者:84名

内容:活動発表及び意見交換会

- ・中砥川・下鶴コスモス会「サロンの活性化 ～地区からの情報発信～」と題して、中砥川地区の取組について発表していただきました。

### ④地域サロン間での情報共有

地域サロン交換ノートを活用して自立している地域サロンの活動内容等を全サロンに情報提供しました。また、地域サロン応援隊の受講者に他サロンへの支援を調整し、意見交換を行いました。

### (3)地域サロン立ち上げ再開支援

区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員に地域の集まりなどの現状を聞き取り、お試しサロンを開催後、地域サロンの立ち上げ等について情報提供しました。

#### ①サロン休止地域との情報共有

- ・谷川わくわくサロンと柳水地区の住民(2名)で合同サロンを実施。

#### ②サロン未設置地域との情報共有

- ・新規立ち上げ:1件(畑中あつまろう会)

### (4)多世代交流の推進

地域サロンの継続した実施のために、子どもから高齢者まで集える場づくりを計画、実施しました。また、多世代交流をされている様子を社協だよりや地域サロン交換ノート及び説明会等で情報提供しました。

#### ★地域サロンで多世代交流をされたサロン

中砥川・下鶴コスモス会、五楽、土山、惣領1町内、馬水南、木山下辻団地

### (5)新たな居場所の創設

地域サロン参加者や地域関係者等からニーズを把握し、地域に必要な新たな居場所づくり、創設のコーディネートを実施しました。

- ・寺中地区:毎月15日に住民主体の集まりを開始。10～16時に公民館開放。参加自由。
- ・本土山地区:毎月月末に開催している。場所:本土山公民館 時間13:30～

### (6)広報活動

#### ①社協だよりへの掲載

- ・毎月の社協だよりに各地域サロンの紹介記事(写真や活動内容)を掲載しました。

## ②ましきサロンだより かたんなっせ！の発行

各地域サロンの開催日時や地域サロン応援隊養成講座のお知らせ、工夫してサロンを実施されている地区の紹介などを掲載し、サロン参加への呼びかけのために活用できる様、サロン参加者や区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員に配布しました。

## ③ICT（通信を使ってデジタル化された情報をやり取りする技術）の活用

各公民館にネット環境の未設置により、ICT を活用したサロン間の交流は難しく、そのため各サロンで撮影した「サロンダンス」を社協まつりで上映し、会場のみなさんと一緒に楽しむことができました。

## (7)地域サロン自立化支援

### ①地域サロンの自立に向けた支援

・年間計画づくりについては、地域サロン交換ノートを活用し、サロン参加者同士で話し合い、作成する仕組みづくりを提案しました。また、自主的に活動されているサロンの情報提供や活用できる社会資源の提供なども行いました。

・自立化しているサロンの見学(赤井ひまわり会)

### ②地域活動の担い手育成

#### <地域サロン応援隊養成講座の開催>

地域サロンを住民主体で活動していくことの重要性及びサロンの活性化を図ることを目的として、地域サロン応援隊養成講座を開催し、地域サロンで中心となって活躍していただくためのサポーターを養成しました。

講師:熊本県レクリエーション協会 会長 上野祥子氏

場所: 益城町交流情報センターミナテラス視聴覚室等

開催日	内 容	受講人数 (名)
7月27日	【講座1】身近な道具を使ったレクリエーション	21
8月2日	【講座2】ニュースポーツをやってみよう！	20
8月30日	【講座3】認知症に関するレクリエーション	16
9月8日	【講座4】子どもたちとも盛り上がるレクリエーション	20
9月29日	【講座5】おさらい・まとめ	21
3月19日	フォローアップ 「支援後の意見交換会」&応援隊2期生、3期生の交流会	21

### ◎地域サロン支援

受講者を10グループに分けて下記のサロンへ支援調整を行いました。

活動日	活動先	活動内容	人数 (名)
10月12日	櫛島サロン	指遊び	2
10月13日	惣領一町内ニコニコ健康サロン	体操、指遊び	2
10月16日	下小谷高遊サロン	紙コップ、新聞紙	2
10月17日	田原寿会	口腔体操	2

10月20日	川内田朝来サロン	新聞紙、ことば遊び	2
10月24日	古閑ミニサロン	体操	1
10月25日	上陳辻ケ峰サロン	指遊び	1
10月30日	安永3町内ふれあいサロン	紙コップ、指遊び	5
12月15日	畑中あつまろう会	紙皿、紙コップ、指遊び	1
1月15日	蛭子町サロンよかば〜い	指遊び、紙コップ	1

## 【地域人材の活躍と育成に向けて】

### 16. 地域サロンサポーター養成講座の開催

地域サロン活動の活性化と介護予防の増進を目的として、地域サロン応援隊養成講座を開催しました。

#### (1) 地域サロン応援隊養成講座（再掲）

### 17. 支え合いの仕組みと活躍の場の提供

地域の課題を把握している地域住民間で支える側と支えられる側に分かれるのではなく、お互いに支え合えることができる仕組みを作ります。そのために養成講座や各種団体と連携し、生活支援サービスの提供を行い、支え合いと活躍の場の提供に努めました。

#### (1) 連携強化（生活支援コーディネーター協議体、地域包括支援センター等）

- ・生活支援コーディネーター協議体会議の開催
- ・地域包括支援センターとの連携会議
- ・ケア会議での通いの場の情報提供(通いの場マップ)

#### (2) ちょこっとサービスの実施（シルバー人材センター）

日常生活支援サービスの1つとして、介護保険サービス等の各制度では対応が難しい生活問題（ゴミ出し等）をシルバー人材センター会員が有料で対応しました。また、活動を通じ特に女性会員の活躍につながりました。

- ・受注件数：19件
- ・就業延人員(人日)：337名

#### (3) 地域福祉の担い手育成、活動支援（再掲）

### 18. 地域福祉合同研修の実施

地域人材の育成とつながりを推進するために合同研修会を実施し、研修では地域福祉に関することや活動事例の紹介等を行い、地域課題の共有及び解決に向けた機会としました。

#### (1) 地域福祉合同研修会の実施

※24. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置事業の実施の(3)②に掲載

### 19. 福祉体験学習の実施

社会福祉施設等での体験学習を通じて、福祉への理解を深め、ボランティア活動のきっかけづくり、社会連帯感の高揚を図ることを目的に実施しました。



また、地域や学校に出向いて福祉体験(車椅子・高齢者疑似体験等)を行いました。

9月には、実習生(看護学生)を受け入れました。

### (1) ワークキャンプ

福祉施設等における体験活動(ワークキャンプ)を通じて児童・生徒及び社会人が福祉への理解を深めることを目的として実施しました。

日程:8月1日(火)そよかぜ福祉作業所 益城中2年(3名)  
8月2日(水)花へんろ 益城中3年(1名)  
8月3日(木)寺迫サロン 益城中央小4年(1名)  
8月8日(火)シルバーライフ熊本 益城中央小4年(1名)  
8月21日(月)～22日(火) 有料老人ホームくましき  
益城中央小4年、益城中央小5年(2名)  
8月24日(木)寺中サロン 津森小4年、木山中1年(2名)  
8月25日(金)畑中サロン 益城中央小6年(2名)

※時間、内容は、施設の計画に沿って行う。

※学年ごと参加人数:12名

	小学 4年	小学 5年	小学 6年	中学 1年	中学 2年	中学 3年	計(名)
男	3	1	2	1	0	1	8
女	1	0	0	0	3	0	4

### ワークキャンプ事前学習会

車いす体験やボランティアの心構えについて説明会を行いました。

日 時:7月28日(金)10:00～11:30

場 所:益城町保健福祉センターはびねす2階研修室

参加者:12名

### (2) 実習生受け入れ

熊本駅前看護リハビリテーション学院看護学科2年生 2名

・9月19日～20日 1名

・9月21日、25日 1名

## 20. 高齢者の活躍支援

### (1) シルバー人材センター事業の充実(基本理念:自主・自立、共働・共助)

高齢者がいきいきと地域社会で活躍できるように、社会参加や活躍のための支援を行いました。

また、会員の確保を進めるため、町施設や民間の店舗などに広報ポスターを掲示し、町内のイベント等で会員を募集しました。

更に10月からのインボイス制度への対応。最低賃金改正に準じた配分金単価の見直しを行い、経営の安定に努めました。

その他、就業以外にも、奉仕活動やリサイクル活動、レクリエーションに取り組み、これらの活動が会員のよる地域貢献や会員同士の親睦につながりました。

会員 登録数	118名 (前年度 106名)	男性:89名 女性:29名 (前年度男性 83名、女性:23名)
受注件数	825件 (前年度 835件)	①管理的職業 0件 ②専門的・技術的職業 0件 ③事務的職業 0件 ④販売の職業 0件 ⑤サービスの職業 20件(家事支援等) ⑥保安の職業 0件 ⑦農林漁業の職業 469件(農作業、剪定等) ⑧生産工程の職業 0件 ⑨輸送・機械運転の職業 0件 ⑩建設・発掘の職業 4件(大工) ⑪運搬・清掃・包装等の職業 332件(清掃、除草、草刈等) ●公共 43件、企業 72件、家庭 710件 (前年度:公共 47件、企業 91件、家庭 697件)
就業 延人員数	9,160人 (前年度 9,692人)	
事業収入	55,901,574円 (前年度 55,138,610円)	配分金 45,386,560円(前年度 44,972,828円) 材料費等 4,137,683円(前年度 4,319,786円) 事務手数料 6,377,331円(前年度 5,845,996円)

## (2) シルバー人材センター運営

### ①体制：会員数 118名（令和6年3月末現在）

### ②班長会議（毎月1回）と各班の体制強化

〈班長会議〉計12回開催

毎月1回、定期的に班長会議を開催し、班の現状や課題について情報を共有しました。

会議では、班合同での作業の打ち合わせや、全国のシルバー人材センターでの事故発生状況を共有しました。また、班長を中心に安全な就業への意識を高めると同時に、各班間の連携を強化しました。

〈報告会〉計2回開催

#### ・全体報告会

日時:9月5日(火) 参加会員 36名

場所:益城町交流情報センターミナテラス 視聴覚室

内容:①令和5年度益城町シルバー人材センターの取組について

②講話『甲佐町シルバー人材センターの取組について』

講師 甲佐町シルバー人材センター 事務局長 増田勇二 氏

会 員 小山 登 氏

#### ・班別報告会

日時:業種別に計7回開催

	日時	業種別	参加会員 (名)
1	3月13日(水)	班所属なしの方	5

2	3月13日(水)	剪定作業班	4
3	3月13日(水)	草刈作業班	8
4	3月14日(木)	一般作業1班	9
5	3月14日(木)	一般作業2班	8
6	3月15日(金)	一般作業3班・定期就業の方	14
7	3月15日(金)	益城クリーンセンター担当の方	14
	合計		62

場所:益城町保健福祉センターはびねす 研修室及び益城クリーンセンター会議室

内容:①令和5年度益城町シルバー人材センター活動報告、安全委員会活動報告

②令和6年度重点目標及び年間計画確認

③班内意見交換会(次年度班長及び安全委員選出)

### ③入会説明会の実施

(随時型入会説明会) ※相談があった方へ随時説明

	男性	女性	合計(名)
参加者数	23	8	31
うち入会者数	23	6	29

(集合型入会説明会) (※新規)

日時:3月9日(土)

場所:益城町保健福祉センターはびねす研修室

参加者数:11名(男性8名、女性3名)⇒うち令和6年度から入会者数:7名(男性5名、女性2名)

### ④安全就業を通じて事故防止に努める(傷害・賠償)

- ・会員の安全就業に対する意識を高めるため、定期的に安全パトロールを実施しました。(8回)
- ・安全委員会を開催し、他センターの安全就業に関する取り組みを共有し、今年度に発生した事故の検証などを行いました。(3回)
- ・安全委員会での話し合いをもとに、安全マニュアルを見直し、改訂版を会員に配布しました。
- ・班長会議や報告会で、全国の事故発生状況等を共有し、会員の安全意識の向上に努めました。
- ・事故が発生した草刈班では、事故の検証を目的に話し合いを実施(7月4日)再発防止に努めました。
- ・事故発生件数:7件(傷害:2件、賠償:5件) 前年度:10件(傷害6件、賠償4件)

### ⑤研修の実施

・全体報告会(9月5日)を通じて、甲佐町シルバー人材センター長を講師に招き、会員同士が円滑に作業を進めるためのポイント、安全就業のために心掛けていることを共有し、意見交換を行いました。

### ⑥事業の情報発信

・毎月社協だよりへ現会員の紹介や新規会員募集等を掲載し情報の発信を行いました。

## ⑦地域貢献

普及月間(シルバーの日)に合わせ、地域貢献を目的に奉仕活動を実施しました。また、継続的にリサイクル活動も実施しました。

(奉仕作業)

日時:11月6日(月) 参加会員数:38名

場所:総合体育館周辺及び旧中央小学校グラウンド

内容:ゴミ拾い、グラウンド内の除草

(リサイクル活動)

リサイクルBOXを常設し、会員の協力を得て、古新聞・雑誌や段ボールの回収を実施し、環境改善に貢献しました。また、これらを業者に持ち込み、町のリサイクル推進事業助成金の申請を行い、会員の集まりでは、有意義に活用することができました。

(リサイクル活動実績)

	業者リサイクル料 (石坂グループ)	町リサイクル推進 事業助成金	計(円)
9月	4,160	3,000	7,160
12月	4,960	3,900	8,860
計			16,020

## ⑧会員間の親睦

会員同士の親睦を目的としたレクリエーション(スポーツ大会)を開催しました。

日時:11月6日(月) 参加会員数:38名

場所:益城復興事務所

内容:室内レクリエーション(講師:町健康運動指導士)

## (3)重点目標

### ①会員の増員に向けた取り組み(令和5年度新規会員登録目標数:15名)

今年度、新規会員として29名が登録

会員募集ポスター掲示及びチラシ設置

(ハローワーク上益城、町内17カ所:町施設、商業施設等)

・地域の関係団体(民生委員・児童委員協議会)を通じ会員募集への協力依頼

・町ホームページを通じての会員募集(※新規)

### ②新規就業先及び職種の確保

新たに公共施設、企業等の定期就業先を確保しました。

・同仁化学研究所(敷地内の清掃)、松本農園(畑の除草草刈、野菜の仕分け)

益城霊園(清掃作業)、湖池屋(野菜の芽切り)

### ③法人化へ向けた情報共有

法人化に向けた取り組みに関しては、より安定した経営を確保できるように事業展開を進めるとともに、引き続き町との情報共有を継続しました。

## 【災害や緊急時対策に向けて】

### 2.1. 地域防災力の強化

地域の防災力を強化するために、災害時に連携した関係機関等とのつながりを、今後の災害ボランティア活動につなげていけるよう、関係機関との情報交換会に参加しました。

また、災害をテーマにしたワークショップへ参加し災害ボランティアセンターの取り組みと7月豪雨災害を通じて見えた地域の助け合いについてプレゼンテーションを行いました。

#### (1) 地域自主防災クラブ支援

地域等へ出向き、熊本地震の経験を活かし、地域自主防災活動を支援しました。

- ・防災訓練内容の相談 1件
- ・防災訓練スタッフ先支援 1件

- ・3月16日(土) 復興まちづくりセンターにじいろ みんなでツナグ益城の記憶  
「災害ボランティアセンターの取り組み」等

### 2.2. 災害ボランティアセンター (※新規)

令和5年7月の豪雨災害において、災害ボランティアセンターを開設しました。熊本地震時の繋がりを活かし、県社協、災害ボランティア団体や専門職の協力を得て被災者支援に取り組みました。

#### 【災害ボランティアセンター活動実績】

センター開設期間:7月6日～9月30日(活動日数39日)

活動件数 延べ98件

ボランティア活動人数 延495名

主な活動内容 ・家屋の床下及び庭からの泥出し、運搬  
・畳、家財の運搬  
・送風機による床下乾燥、消毒等

#### 【被災者訪問活動】

災害ボランティアセンター閉所後は、職員で個別訪問を行い、困り事や再建状況の把握を行いました。

訪問件数 20件 (災害ボランティアセンター依頼者)

訪問期間 10月～12月

配布物 手編みのひざ掛け 160枚(岡山県 震災ボランティア団体より)

マカロン 20セット(共同募金配分事業)

### 2.3. 社協活動の広報

社協事業や活動について、社協だより、ホームページ等で情報発信を継続していきます。また、より効果的な広報活動を行うために職員研修会を実施し、広く活動を知ってもらえるように、新しい広報媒体についても検証・検討しました。

#### (1) 社協だより、ホームページ等での啓発継続

毎月1回(年12回)発行している「社協だより」を町の協力を得て町内全戸に配布し、社協活動を広く住民に理解していただくとともに、地域で行われている福祉活動の情報発信を行いました。事務局内から4名の広報担当を選出し、毎月の打ち合わせを行い、また、専門家の助言をいただきながらより見やすい広報誌づくりに努めました。

ホームページの更新も毎月行い、より閲覧しやすいように内容や写真などの更新を適宜行いました。また、月ごとに閲覧者数等を把握し、事務局内で情報共有を行いました。

## (2) Facebook等のSNSの検討

フェイスブックを活用し、令和5年7月豪雨災害で設置した災害ボランティアセンター活動の広報を行いました。また、地域支え合いセンター事業が令和4年度で終了したため、名称を益城町社会福祉協議会名で情報発信を行いました。今後は、より多くの方に益城町社協の活動を知っていただくための活用方法の検討が課題です。

## (3) 町の行事に参加し事業啓発

町防災訓練へ参加

7月豪雨災害支援の活動報告を行いました。(パネル展示、資材展示)

10月29日(日):訓練場所:益城中央小学校体育館

# III. 困りごとを見過ごさない地域づくり

## 【相談体制の充実に向けて】

### 24. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）配置事業の実施

町と連携して重層的支援体制整備事業(今年度から本事業)を推進するために、包括的相談支援、参加支援及び地域づくりに向けた支援を多機関協働事業を核として一体的に実施しました。

具体的には、日頃の暮らしの中で誰に相談したらよいか分からない悩みごとや困りごとの解決方法を一緒に考える地域の身近な相談員として、高齢者、障がい者、子育て世帯、生活困窮者等の福祉に関する相談を受け、多様化・複合化した課題の整理や関係機関・サービスにつなぐ支援を包括的に実施しました。

また、役場庁内とは各種会議を通じて、地域においては福祉ワークショップ(行政区別福祉座談会)を通じて、困っている方の早期発見や地域関係者と支援機関のネットワーク構築を図り、困っている方を見過ごさない体制づくりに努めました。

#### (1) 包括的相談支援

##### 属性や世代を問わず包括的に相談を受け付ける

相談者(地域住民等)の属性・世代・相談内容に関わらず包括的に相談を受け止め(断らない相談支援)、相談援助を通じて相談者の生活課題を整理し、課題に応じて適切な支援機関につなぎました。単独の相談支援機関で解決が難しい場合は、コーディネート機能を発揮して各種支援機関と連携を図りながら支援を行いました。

(事業の周知活動)

周知広報活動においては、社協だよりへの毎月掲載のほか、事業案内チラシも活用しました。また、各関係機関の訪問や福祉座談会等で事業説明等を行いました。

- ・こどもL.E.C.センター(児童心理治療施設)
- ・プルメリア(相談支援事業所)
- ・スクールソーシャルワーカー(上益城教育事務所)
- ・ひろやす荘(認知症対応型通所介護事業所)

- ・広崎2町内班長会議
- ・行政区別福祉座談会:24回

(相談対応実績)

新規相談・支援終結・支援継続世帯

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (世帯)
新規相談	2	3	2	1	1	1	2	2	3	0	3	2	22
支援終結	1	1	3	0	0	0	3	2	2	2	0	11	25
支援継続	31	33	32	33	34	35	34	34	35	33	36	27	27

相談対応延件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
電話	12	16	24	4	18	6	23	22	14	14	19	26	198
面談	1	3	6	2	2	4	10	5	7	1	6	6	53
訪問	9	11	12	4	7	11	0	7	8	7	7	8	91
同行支援	2	0	0	0	0	0	11	0	2	2	3	2	22
合計	24	30	42	10	27	21	44	34	31	24	35	42	364

## (2) 多機関協働事業

### ①地域で包括的な相談支援体制を構築する

重層的支援体制整備事業に関わる関係者の連携の円滑化を図り、状況に応じて既存の支援機関をサポートし、地域における包括的な支援体制が構築できるよう努めました。

(ケース会議への出席)

福祉課、地域包括支援センター等関係機関が主催するケース会議への出席:12回

(社会福祉士連絡会の開催:4回 第6～9回)

事務局:CSW

構成:町内の事業所等に勤務する社会福祉士

開催日	内容	講師	参加者数(名)
7月7日(金)	精神科病院におけるSWrの役割	益城病院 田中氏	24
10月31日(火)	児童養護施設の現状とSWrの役割	広安愛児園 松岡氏	19
1月31日(水)	共に考える分野・領域を超えた地域を基盤とするSW実践	熊本学園大学 黒木教授	18
3月13日(水)	行政機関におけるSWrの役割とジレンマ～多機関・多職種との連携構築を目指して～	益城町役場福祉課 山本氏、吉田氏、橋本氏	19

### ②重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす

必要に応じて既存の支援機関(相談窓口)に助言を行う等、地域における包括的相談支援体制の構築を図るため、多機関協働を核として支援機関の対応力向上を図りました。

### ③支援機関の役割分担を図る

一つの支援機関では対応が難しい複雑化・複合化したケースの調整役をCSWが担い、支援会議等を通じて支援機関同士の支援調整、役割分担の整理、支援の進捗状況把握を行いました。

(支援会議の開催:21回)

出席者:区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、人権擁護委員、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、相談支援事業所、就労継続支援B型事業所、社協、福祉事務所、SSW、保健所、警察署、役場(福祉課、都市計画課、税務課、危機管理課、健康保険課)

### ④庁内及び生活困窮者支援機関との連携を強化する

課題を抱えながらも適切な機関につながっていない住民の支援について、庁内機関とCSWで検討する支援会議を開催しました。

また、経済的課題に関する相談も多く、生活困窮者支援機関と連携を図りました。

(庁内支援会議の開催:5回)

開催日	対象	出席者
4月20日(木)	F氏(40代)	税務課納税係、水道課管理係、都市計画課建築係、福祉課(包括支援係、障がい支援係、地域福祉係)、CSW
6月8日(木)	Y氏(50代)	税務課納税係、都市計画課建築係、福祉課地域福祉係、CSW
10月27日(金)	F氏(60代)	総務課男女共同参画係、税務課納税係、福祉課(人権対策係、地域福祉係)、CSW
12月18日(月)	H氏(40代) F氏(40代) Y氏(50代)	※これまで検討した3件の支援経過報告
2月20日(火)	O氏世帯	上益城福祉事務所、福祉課(包括支援係、地域福祉係)、CSW

(生活困窮者支援機関との協議)

社協在宅福祉課で、生活困窮者自立支援事業や生活福祉資金貸付等を担当しているため、随時、課内で相談ケースの共有や協働を行いました。

### (3)アウトリーチをととした継続的支援

#### ①支援が届いていない世帯に支援を届ける

複数分野にまたがる複雑化・複合化した生活課題を抱え、必要な支援が届いていない世帯へ直接的、または地域の支援者を通じて間接的に継続的支援者を行いました。

(アウトリーチ等を通じた継続的支援)

対象世帯:6世帯

#### ②会議や支援機関との連携の中から潜在的な要支援者を見付ける

各種会議や支援機関との連携を通じて、地域の状況・情報等を幅広く収集し、ニーズを抱える要支援者の把握に努めました。

また、地域支え合いセンター閉所(令和5年3月末)に伴い、これまでセンターで関わっていた世帯の情報を引き継ぎ、支援が必要な世帯へ継続的な支援を行いました。



(地域支え合いセンターが関わっていたケースの支援)

支援件数:17 世帯 ※うち災害公営住宅入居世帯 12 世帯

(福祉ワークショップ(行政区別福祉座談会)の開催)

地域に出向き、小地域単位での研修会を開催しました。行政区ごとに区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員等地域関係者に集まっていたいただき、関係者同士または、地域関係者と支援機関等のネットワークや見守り体制の構築を目指し、地域ごとの課題共有及び解決、情報交換のできる合同研修会を行いました。

開催：24行政区（東部圏域：10 西部圏域：14）

参加者：区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、地域住民、地域包括支援センター、社協等

内容：①行政区域を地図で確認

②C SWの役割と地域との連携について

③事例検討（見守り活動を通じて発見した気になる世帯をどう支援したらいいか）

④地域で気になる世帯の情報共有

月	日	圏域	行政区	人数 (名)	参加者（地域関係者） 計 78 名
5	30	西部	広崎 3 町内	4	区長、民生委員・児童委員 2 名、 高齢者相談・地域福祉委員
	31	西部	福富	6	区長、副区長、民生委員・児童委員 2 名、 高齢者相談・地域福祉委員、会計
6	6	東部	北向	7	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員、地域住民 4 名
	20	東部	寺中	2	民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員
	29	西部	安永 3 町内	3	区長（民生委員兼務）、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
7	11	東部	上陳	3	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
	20	西部	惣領 3 町内	4	区長、民生委員・児童委員 2 名、 高齢者相談・地域福祉委員
8	3	西部	東無田	3	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
	24	東部	平田西	2	区長、民生委員・児童委員
9	5	西部	上砥川	2	区長、民生委員・児童委員
	14	東部	柳水	2	区長、高齢者相談・地域福祉委員
	26	西部	馬水南	4	区長（民生委員兼務）、民生委員・児童委員、副区長、 高齢者相談・地域福祉委員
10	12	西部	下砥川	3	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
11	7	西部	広崎 1 町内	3	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
	12	東部	内寺	2	民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員

	28	東部	南	2	区長、民生委員・児童委員
12	5	西部	古閑	2	区長、高齢者相談・地域福祉委員
	7	東部	辻の城団地	1	区長
1	23	東部	上町	3	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
	25	西部	惣領1町内	2	区長、民生委員・児童委員
2	8	西部	安永1町内	4	区長、副区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
	22	東部	下寺中灰塚	3	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
	29	西部	赤井	3	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員
3	12	西部	木崎	8	区長、民生委員・児童委員、 高齢者相談・地域福祉委員、地域役員5名

### ③本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置く

6世帯の支援において、本人及び家族(特に、本人との接触が難しい場合)と信頼関係が構築できるよう丁寧な働きかけを地域の支援者と協働で実施しました。

## (4)参加支援

### ①地域の社会資源(事業所等)を把握し、関係性を構築する

会議への出席等を通じて地域の社会資源を改めて把握及び整理し、相談援助において対象者へ情報提供やつなぎを実施しました。

### ②社会とのつながりをつくるための支援を行う

既存の制度では対応できないニーズに対応するため、参加支援に関わる支援機関と連携して、新たな社会資源(居場所等)の創出を検討しましたが、改めて地域の社会資源を把握及び整理し、活用に努めました。

### ③本人のニーズを踏まえた丁寧なマッチングを行う

これまで就労未経験や社会とのつながりが無い方、ひきこもり傾向にある方の相談援助においては、社会資源とのマッチングを見据えながら本人の思いやニーズを丁寧に把握し、信頼関係の構築に努めました。

(参加支援)

- ・対象世帯:6世帯(6名)
- ・多職種連携会議への参加(毎月)を通じて、生活支援コーディネーター及び各団体より参加支援につながる社会資源の情報収集を随時行い、整理しました。
- ・参加支援のあり方について、CSW事業意見交換会で随時、町福祉課地域福祉係と検討しました。

## (5)重層的支援体制整備事業 視察対応

### ①町福祉課と合同で対応

- ・8月22日(火)菊陽町、菊陽町社協

- ・8月29日(火)あさぎり町、あさぎり町社協
- ・10月2日(月)甲佐町、甲佐町社協
- ・2月28日(水)相良村、相良村社協

②益城町社協で対応

- ・9月15日(金)御船町社協
- ・10月10日(火)あさぎり町社協

## 2.5. 福祉相談の充実

包括的支援体制を目指して、関係機関と連携し、総合相談や継続的な支援を推進し、課題を抱える人に対しては、地域支え合いセンターで実施していたアウトリーチや見守りネットワークで把握している情報により、相談対応を実施しました。また、地域支え合いセンター事業で関係性が構築できた団体や民生委員・児童委員等との連携を推進しました。

### (1)ふれあい福祉総合相談所

#### ①福祉相談の充実

誰もが日常的な困りごとを早期に安心して相談できるふれあい福祉総合相談所を常設し、プラットフォーム機能を活かし、相談対応を通じて専門機関等へつなぎました。また、生活課題を解決するために多機関・多職種と連携し相談対応を充実させました。

#### ②心配ごと相談所の開設

地域住民が気軽に安心して、「困りごと」や「心配ごと」を相談できるプラットフォームとして毎週水曜日に開設し、ちょっとした困りごとから法律的な相談まで受付け、専門機関や関係機関へのつなぎも行いました。開設にあたっては、専門相談員として司法書士や行政書士、行政相談委員、相談員として人権擁護委員、消費生活相談員、民生委員・児童委員の協力を得て、どんなことでも気軽に相談できる総合相談体制で実施しました。

・会場:役場1階 相談室D

- ・開設回数 48回(毎週水曜日) (前年度:50回)
- ・相談員延人数 123名(専門相談員48名、相談員75名) (前年度:131名)
- ・相談者数 210名(来所206名、電話4名) (前年度:182名)
- ・相談件数 359件 (前年度:273件)

相談内容	財産	人権・法律	家族	住宅	老人福祉	離婚	年金	心身障害(児)福祉	生計	精神衛生	母子福祉	父子福祉	事故	その他	合計
相談件数(件)	128	110	44	24	11	8	4	4	3	2	2	1	18	359	
割合(%)	35.6	30.6	12.3	6.7	3.1	2.2	1.1	1.1	0.8	0.6	0.6	0.3	5	100	

### ◎心配ごと相談員研修会の開催

地域住民からの様々な心配ごとに応じる相談員の資質向上を図ることを目的として、心配ごと相談員研修会を開催しました。

開催日:1月12日(金)

内容:「対人援助技術の実践について」

講師:九州ルーテル学院大学 人文学部心理臨床学科 准教授:西 章男氏

参加人数:50名(専門相談員、人権擁護委員、消費生活相談員、民生委員・児童委員)

### ③課題対応のための連携

生活困窮者自立支援事業の自立相談支援事業やひきこもり相談窓口など、住民困りごと窓口として開設し、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)や他の専門機関と連携して課題の解決に努めました。

a. 職員全体による包括的な相談体制の充実(窓口対応体制)

b. 専門相談機関との連携

町行政、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会、消費生活センター、警察等

### (2)ひきこもり相談窓口 (アウトリーチ等支援の充実)

毎月、社協だよりに相談窓口を周知広報し、困りごとのある人の相談に寄り添い、支援を必要とする方に対してアウトリーチ等による包括的な支援に努めました。

また、当事者や家族等が相談しやすいように民生委員・児童委員や多機関、多職種と情報共有に努めました。

・相談件数:新規7件(益城町5件、町外2件)

・相談経路:行政3件、支援団体1件、家族3件

	20代	30代	40代	50代	60代	合計(名)
男性	0	2	1	0	0	3
女性	1	1	1	0	1	4

2月23日にひきこもり理解のための講演会を計画し、住民向け講演会と支援者向け研修会を開催予定にしておりましたが、講師の大橋史信氏が病気のためご逝去されましたので、中止となりました。

### (3)福祉機器無料貸し出し

#### ①車椅子の貸し出し

外出時や体調不良時等に車椅子が一時的に必要な方に対して、1ヶ月を限度として無料で貸し出しを行いました。また、幼児や小中学生からの貸し出し依頼もあり、理由は骨折によるものが殆どでした。

車いす貸し出し:37件(うち幼児や小中学生への貸し出し:9件)

#### ②疑似体験セットの貸し出し

疑似体験セット貸し出し:3件

## 26. 相談体制強化に向けた連携

住民の多様化する相談ニーズに対応するために、専門機関等の関係機関との連携強化に努めました。また、目先の課題解決のみならず伴走型の継続支援を行っていくため、コミュニティソーシャルワーカー等の関係機関と連携し、包括的支援を実施しました。

## 【福祉サービスの充実に向けて】

### 27. 見守り体制の充実

近隣での日常的な見守りを実現するために、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、サロン協力員等への啓発や協力を要請し、見守り体制の充実を図りました。また、民生委員・児童委員等の協力で、課題を抱える人・世帯の実態把握を行いました。

#### (1) 見守り活動の支援（再掲）

#### (2) 実態把握

##### ・実態調査

民生委員・児童委員の協力を得て、一人暮らし高齢者や在宅介護者及び要介護者の実態調査を行いました。また、見守り体制構築に向けた取り組みの一環として、一人暮らし高齢者を対象に益城つながりバトン事業を町や民生委員・児童委員と連携して実施しました。

##### ・見舞事業

一人暮らし高齢者及び在宅要介護者に対し、歳末たすけあい見舞事業として、掃除セットを配布しました。なお、65歳～74歳の一人暮らし高齢者については、民生委員・児童委員調査により、介護度、障がいの状態、経済的理由等を考慮して配布しました。

・歳末たすけあい見舞配布数:790 世帯

	配布世帯
一人暮らし高齢者	554
在宅要介護者	209
相談に来られた方	27
合計	790

## 28. 認知症に関する地域支援

### (1) 認知症地域支援・ケア向上事業（認知症地域支援推進員）

#### ① 関係機関との連携

・認知症の方に対して、状態に応じた適正なサービスが提供されるように、認知症疾患医療センターや医療機関、介護サービス事業所、地域包括支援センター、また認知症の方を支援する関係団体等との連携を図りました。

・毎月「認知症ネットワーク連携会議」に参加し、認知症事業についての情報交換や意見交換を行いました。（町役場福祉課、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等）

・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、困難事例の検討を行いました。

#### ② 相談体制の構築及び啓発活動

・認知症の方やその家族等からの初期相談の場として、「もの忘れ相談室」を開催し、必要に応じ

て 情報提供や適切な機関へつなぎ、認知症予防と介護負担の軽減を図りました。

(毎月、第3火曜日に開催)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
0	0	0	0	1	2	0	1	0	2	1	1	8

※相談先経路:地域包括支援センター、認知症疾患医療センター益城病院

- ・認知症ケアパス・ガイドブックを関係機関や民間企業、地域サロンなどで配布し、相談体制の充実を図りました。
- ・地域住民へ認知症に関する周知、啓発のために、9月のアルツハイマー月間の際に、町及び町内小中学校の図書館に関係図書の展示やチラシなどを置くことや、町民向けに「認知症映画上映会」(9月22日)を行うことで、若年層も含めた認知症啓発活動を行いました。

### ③介護保険施設等に対する多職種協働等の支援体制の取り組み

- ・医療、介護等の機関が相互の役割・機能を理解し、統合的なケアにつなげていくため、認知症ケアの知識や多職種協働の重要性等を習得する「認知症多職種協働研修会」を実施しました。  
2月17日(土) 第3回認知症多職種協働研修会「若年性認知症の人の支援について」  
講師:県若年性認知症コーディネーター、益城病院医師 参加者:32名  
3月23日(土) 第4回認知症多職種協働研修会「認知症の人の心に届く 声のかけ方 接し方」  
講師:元気がでる介護研究所 参加者:56名

### ④認知症の人とその家族に対する支援事業

- ・認知症の人を介護する家族等が交流を深め、日常の介護負担の相談、思いを一緒に語り合い、息抜きができる場として「介護者応援隊いきぬこ〜会」を開催しました。

(奇数月 第4水曜日に開催)

5月	7月	9月	11月	1月	3月	合計(名)
3	7	2	4	4	3	23

- ・益城町で展開している「認知症カフェ」の活動支援及び開設の支援を行い、認知症の人を支えるつながりの構築や社会参加、また、家族の介護負担軽減の支援を図りました。

(「花カフェ」:第2水曜日 寺迫公民館)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
7	9	7	7	中止	7	6	6	6	7	6	7	75

(「ほっこり茶屋」:第4火曜日 下辻団地集会所) ※令和5年7月より新規開催

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
16	13	16	12	15	13	15	13	10	123

他にも益城病院開催のオレンジカフェ(下砥川、市ノ後、福富)にも参加し、支援を行いました。

## (2) 認知症サポーター等養成事業 (認知症地域支援推進員)

### ①認知症サポーター養成講座の開催

#### a. 認知症サポーター養成講座

認知症に対する理解と地域での支え合いを深めるため、認知症サポーター養成講座を開催し

ました。合計:533名 (前年度:307名)

- ・地域住民向け認知症サポーター養成講座の開催(受講者:9名)

(第1回開催:7月29日) 受講者:3名 (第2回開催:1月11日) 受講者:6名

- ・小、中学校での認知症サポーター養成講座の開催(受講者:332名)

学校名	開催日	受講者数(名)
津森小学校	10月4日(水)	22
広安小学校	10月13日(金)	120
広安西小学校	10月26日(木)	114
益城中央小学校	1月18日(木)	76

- ・町内の民間企業や団体等向け認知症サポーター養成講座の開催(受講者:192名)

企業・団体名	開催日	受講者数(名)
惣領2町内サロン	4月26日(水)	18
堂園サロン	5月1日(月)	15
福富サロン	6月14日(水)	30
地域福祉塾	8月23日(水)	17
広崎3町内サロン	8月28日(月)	11
木山下辻団地	9月26日(火)	16
馬水北サロン	10月21日(土)	33
市ノ後サロン	12月1日(金)	15
安永2町内サロン	1月17日(水)	12
くまもと生協	2月13日(火)	19
下砥川サロン	2月22日(木)	6

#### b.キャラバン・メイト養成研修等

- ・認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバン・メイト活動の充実を図るため、養成講座を行いました。今年度より、実際に養成講座等で活躍されています。

開催日:7月4日(火)、7月18日(火)

講師:熊本県認知症介護指導者の会

受講者:18名

- ・また、キャラバン・メイトの活動を進めていくために、事務局としてキャラバン・メイト連絡会を開催し養成講座に向けての調整や学びを深める場を開催しました。

(第1回)9月14日(木) 参加者:13名 (第2回)3月12日(火) 参加者:11名

#### ②認知症サポーターステップアップ講座の開催

認知症サポーター養成講座修了者を対象に、認知症に関する基礎知識・理解を深めていただき、認知症の方に対する個別支援や地域づくりなど、実際の支援活動につなげることを目的とした「認知症サポーターステップアップ講座」を開催しました。

開催日:2月7日(水)、2月28日(水)

講師:熊本県認知症介護指導者の会

受講者:13名

受講後は13名が県の認知症アクティブサポーターとして登録し、今後はアクティブサポーター

として、地域の認知症の方を支える活動が出来るように支援していきます。

### **(3) 認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業（オレンジコーディネーター）**

#### **①認知症サポーターの活動促進**

認知症サポーターステップアップ講座修了後、活動をさらに一步前進させ「認知症アクティブサポーター」として、地域で活動できるよう「フォローアップ交流会」や認知症カフェ等の支援スタッフとして協力していただきました。

・フォローアップ交流会

開催日:9月27日(水)

内容:オレンジコーディネーターについて

参加者:8名

その後、福富チームオレンジの活動に参加

#### **②「チームオレンジ」の支援**

地域の認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症アクティブサポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み(チームオレンジ)を整備し、その運営を検討してきました。その中で益城病院のオレンジコーディネーターと一緒に、今年度は福富地区をチームオレンジとして活動方針を定め、編成・支援を行い、地域でみんなが見守れる体制づくりを進めるため、「オレンジカフェ」や「夕暮れカフェ」など活動の支援を行いました。

## **29. 介護に関する福祉サービスの充実**

介護が必要な人やその家族の介護負担を軽減するために、様々なサービスを提案しました。また、居宅介護支援事業については、高齢者ができる限り住み慣れた居宅において日常生活を営むことができるよう生活全般の支援を行うとともに、家族の介護負担の軽減のためにスムーズに利用できるよう包括的な支援を行いました。

### **(1) 居宅介護支援（介護予防支援）事業**

#### **①介護保険についての相談体制の充実**

介護支援専門員が介護を必要としている高齢者やその家族等の相談支援を行いました。

介護に関する相談:10件(本人・家族からの相談:6件、関係機関からの相談:4件)

相談内容は地域包括支援センターへ引継ぎ連携しました。

#### **②介護保険サービス等の利用に関する支援**

介護保険サービス等の利用を希望される方に対して、課題分析を行ったうえで目標を明確化し、利用者やその家族の意向を尊重しながら必要なサービスを提案しました。また、各サービス事業所担当者等との会議を行い、適切なサービス利用に向けて調整を行いました。コロナの影響も落ち着き本来の担当者会議開催が可能となりました。

#### **③サービス実施状況の把握と継続的な支援**

定期的に利用者宅を訪問し、身体の状況や生活環境を把握することで、サービス実施状況の評価を行い、利用者のニーズに沿ったサービス利用の調整を随時行いました。また、それに伴う給付管理業務を行いました。



- ・介護支援専門員:3名
- ・利用者延人数:介護:461名、介護予防:45名

**【居宅介護支援利用者数:介護】**

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者 延人数(名)	201	116	72	62	10	461
割合(%)	43.6	25.2	15.6	13.4	2.2	100

**【居宅介護支援利用者数:介護予防】**

介護度	要支援1	要支援2	合計
利用者 延人数(名)	10	35	45
割合(%)	22.2	77.8	100

**④各関係機関との連携の強化**

介護予防支援業務を受託する中で、担当の地域包括支援センターと密に連携しながら、要支援認定者等の支援を行いました。また、個々の日常生活が円滑に行われるように地域包括支援センター、医療機関等と日頃から連携を図り、高齢者のニーズに応じたケアマネジメントに努めました。

**⑤ケアプランの質の向上への取り組み**

町の介護給付費適正化事業におけるケアプラン点検や町介護支援専門員連絡会、町主任介護支援専門員の会へ参加し、個々がケアプランの妥当性やサービス実施状況を検証し、多様化するニーズに対応できるよう介護支援専門員の質の向上に努めました。

また、地域ケア会議へ参加することで、多職種からの意見を参考にしながら、自立支援を目指したケアマネジメント業務の強化に努めるとともに、地域資源の活用などの検討を行いました。

a. 益城町介護給付費適正化事業(ケアプラン点検)

7月プラン提出 :対象者(有料老人ホーム入居者 要介護3) 1名

1月19日(金):ケアプラン点検研修会 講師:くまもと健康支援研究所 石原 純生氏

b. 5月19日(金):基本情報・アセスメントシート・課題整理総括表について

7月21日(金):コロナ禍における退院から在宅へ…

9月15日(金):プラン1表～3表・サービス担当者会議 意見交換及び情報共有

11月17日(金):居宅介護支援事業所におけるICTって？

1月19日(金):高齢者にまつわる薬の最新情報

3月16日(土):「地域課題を振り返る」 民生委員・児童委員との意見交換会

c. 地域ケア会議へ事例提供

2月22日:益城町自立支援型地域ケア会議 (1名)

3月21日:益城町自立支援型地域ケア会議 (1名)

事例毎、事前打合せ(町、包括支援センター)後、事例提出

**⑥業務継続計画(BCP)作成と取り組み(※新規)**

感染症や災害等が発生した場合でも、必要なサービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、業務継続に向けた計画の策定、研修計画を策定しました。必要なサービスを継続的に

提供するために、一時中断した場合であっても、早期の業務再開を図るための業務継続計画(BCP)を策定しました。

また、コロナ禍の状況も落ち着き、本来の事業に戻りつつあります。今後も状況を把握し柔軟な対応を図ります。

### ⑦介護サービスの啓発活動

介護保険の啓発に向け社協が行う様々な地域活動で、介護保険等の説明などを行いました。

また、介護サービス情報公表システムにより、介護サービス情報を公表することで事業内容の情報を発信し、事業の明確化を図りました。

- ・1月17日:小峯ニコニコサロンにて「介護保険施設の種類と役割について」講話
- ・1月25日:惣領2町内ふれあい会にて「介護保険施設の種類と役割について」講話

### ⑧介護報酬改定へ向けた研修会参加 (※新規)

- ・3月8日(金):社協に求められる介護サービスについて

## 30. 成年後見・市民後見等の検討

研修会等に参加し、成年後見業務の知識を深めました。また、地域福祉権利擁護事業利用者のつなぎ方等の知識も学びました。次年度の法人後見業務開始に向けて、県内の市町村社協をはじめ関係機関から情報収集を行いました。

### (1)地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)の実施

認知症高齢者や障がい者等の在宅での生活支援を行うために、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理、貴重品預かり等を実施しました。

利用者数:10件(新規契約2件。契約終了0件) (前年度:利用者数8件)

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
契約件数 (継続含)(件)	2	3	5	10
生活支援員 支援回数(回)	74	104	254	432
電話来所 相談(回)	105	366	386	857

### (2)成年後見・法人後見 (※新規)

成年後見制度の仕組みを理解するために研修会へ参加し、知識を深めました。次年度の法人後見業務開始に向けて準備を行いました。

## 31. 生活困窮者への支援

生計に課題のある人が経済的に自立するために、家計管理のアドバイスや仕事探し、子どもの学習支援等を総合的に行い、生活困窮者自立支援事業を実施しました。

また、社協だよりやホームページへ貸付事業等の情報掲載や相談窓口の周知・広報を行いました。

### (1)生計に課題のある人への支援(貸付事業)

民生委員・児童委員の相談援助と資金貸付により、要援助世帯の生活を支援しました。コロナ特例貸付をされた方の償還が始まり、償還について相談援助を行いました。償還の滞納がある方へ

は、償還猶予の案内等を行い、安心した生活が送れるように支援しました。

### ①生活福祉資金貸付事業（県社協事務受託）

・総合支援資金	1件	570,000円	(前年度:0件 0円)
・福祉資金	0件	0円	(前年度:0件 0円)
・電話来局相談	29件		(前年度:コロナ関連 499件)

### ②福祉金庫貸付事業（限度額5万円）

・貸付	0件		(前年度:0件 0円)
・電話来局相談	0件		(前年度:1件)
・償還額	0件		(前年度:0件)

### ③高額療養費貸付事業

・貸付	0件		(前年度:0件)
・電話来局相談	0件		(前年度:0件)

令和5年1月よりコロナ特例貸付の償還(新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付債権管理業務)が始まり、償還が滞っている人や生活が困窮している人へ償還猶予の案内を実施しました。(※新規)

・償還猶予申請者数:5名

家賃の支払いが難しく、困窮している方へ住居確保給付金の支援(申請)を行いました。

・申請数1件(給付決定1件)

## (2)生活に課題がある方への支援(再掲)

生活困窮者自立支援事業の自立相談支援事業やひきこもり相談窓口などを社協だより等で周知・広報を行い、住民の困りごと相談窓口として、コミュニティソーシャルワーカーや他の専門機関と連携し、相談対応を通じて課題解決に努めました。

## 【連携体制の強化に向けて】

### 3.2. 福祉関係団体事務局への協力、事業所との連携

区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員等と連携して、地域支え合い活動を推進するとともに、委員の方には、気になる(課題を抱える)人への目配りを行っていただき、関係機関へつなぐ等の支援を行いました。また、事業所向けの認知症サポーター養成講座や認知症多職種協働研修会を開催し、見守りの必要性を啓発するとともに、ネットワークづくりの支援を行いました。

#### (1)民生委員・児童委員協議会総務会、例会への参加

民生委員・児童委員の事務局として総務会や例会の開催支援や事務的支援を行い、地域における調査支援や活動支援の支援を行いました。

#### (2)高齢者相談・地域福祉委員（再掲）

#### (3)関係機関の情報共有会（顔合わせ）の実施(再掲)

#### (4)事業所向け認知症サポーター養成講座の開催(再掲)

### **33. 町や地域の多様な主体との連携強化**

誰も取り残さない社会の実現のために、町との連携を強化し、町の行う重層的支援体制整備事業をはじめとする、様々な事業を推進する中で、地域の多様な主体(区長、民生委員・児童委員、高齢者相談・地域福祉委員、老人クラブ、婦人会、PTA等)の地域活動を支援し、連携強化を図りました。

#### **(1) 見守りやアウトリーチ等支援**

支援対象者を中心に地域の関係機関等と連携して、見守りネットワークを推進していくとともに必要な支援が届いていない世帯へは、連携を通じてアウトリーチ支援を実施しました。

### **34. 関係団体への活動支援**

関係各団体が活発に活動するために、助成を行いました。また、「社協だより」を通じて関係団体の活動を紹介しました。

#### **(1) 団体助成の推進**

##### **・ 情報発信**

関係団体へ、助成金に関する情報発信を行いました。

##### **・ 後方支援**

助成金を活用できるように、情報の提供と書類作成を行いました。

##### **・ ふるさとづくり助成事業**

地域の公共施設である公民館や公園等の整備に対し助成をし、募金活動の広報や協力呼びかけを行いました。今年度は申請がありませんでした。

#### **(2) 関係団体への助成**

各福祉団体の活動費として助成しました。

助成団体

- ・ 民生委員児童委員協議会 ・ 老人クラブ連合会 ・ 身体障害者福祉協会
- ・ ボランティア連絡協議会 ・ 保護司会 ・ 遺族会 ・ NPO法人子育ておおきな木

## **IV. 社会福祉協議会の体制整備**

### **1. 社協体制の強化**

#### **(1) 組織活動の充実**

地域支え合いセンター事業が令和4年度で終了し、事務所が益城町保健福祉センター内に一本化されたことにより、各課の垣根を越えた一体的な連携を図る体制が整いつつあります。また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、地域活動も少しずつ活性化し、コロナ禍前の活動が戻りつつあります。そのような中、組織活動の充実を図るために各関係機関、団体、行政等の連携を密にし、住民主体の地域づくりを実施するとともに住民の期待に対応できる体制づくりに努めました。

また、本町で甚大な災害が発生した場合、可能な限り継続的・安定的な事業運営が確保できる

よう、事業継続のための体制整備を図る目的で「益城町社会福祉協議会事業継続計画」(BCP)を策定しました。

## (2) 拠点（事務所）の確保

社会福祉協議会の事業展開を長期的視点から捉え、住民が来所しやすい事務所等について、引き続き行政と検討を重ねました。

## (3) 理事会・評議員会の充実

### ① 理事会・評議員会の開催

#### ・理事会 4 回開催

第1回理事会:5月26日

1. 令和4年度益城町社会福祉協議会事業報告について
2. 令和4年度益城町社会福祉協議会会計決算について(監査報告)
3. 令和5年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について
4. 補欠に伴う評議員選任候補者の推薦について
5. 令和5年度第1回評議員選任・解任委員会の開催について
6. 令和5年度第1回評議員会の開催について

第2回理事会:6月21日

1. 会長、副会長及び常務理事の選定について

第3回理事会:12月22日

1. 令和5年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について
2. 益城町社会福祉協議会電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定について
3. 令和5年度第2回評議員会の開催について

第4回理事会:3月5日

1. 令和6年度益城町社会福祉協議会事業計画について
2. 令和6年度益城町社会福祉協議会会計予算について
3. 益城町社会福祉協議会定款の変更について
4. 役員等賠償責任保険契約について
5. 令和5年度第3回評議員会の開催について

#### ・評議員会 3 回開催

第1回評議員会:6月21日

1. 令和4年度益城町社会福祉協議会事業報告について
2. 令和4年度益城町社会福祉協議会会計決算について(監査報告)
3. 令和5年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について
4. 任期満了に伴う役員の選任について

第2回評議員会:1月30日

1. 令和5年度益城町社会福祉協議会会計補正予算について

第3回評議員会:3月28日

1. 令和6年度益城町社会福祉協議会事業計画について
2. 令和6年度益城町社会福祉協議会会計予算について
3. 益城町社会福祉協議会定款の変更について

#### (4)職員資質の向上・働く環境の整備

- ①職員会議を毎月開催し、情報の共有を行うとともに、研修会を開催しました。令和5年度は職員が受講したキャリアパス研修等の復命研修を行いました。
- ②毎月2回課長・係長会議を開催し、課ごとの状況や実績、課題等の共有、各課一体となった事業運営を進めることができるよう努めました。
- ③職員の資質向上及び地域福祉推進に向けた人材育成への取り組み  
(社会福祉士、介護福祉士、主任介護支援専門員、介護支援専門員等)  
今年度新たに資格取得した職員はいませんでした。県社会福祉協議会が主催するキャリアパス研修や経験年数や役職等による多様な研修に参加することで職員資質の向上を図りました。
- ④福祉サービス苦情解決第三者委員と事務局との内部研修会を2月1日に実施し、苦情受付状況の報告や意見交換を行いました。また、その後、熊本県運営適正化委員会主催の第三者委員向け研修に参加していただきました。

## 2. 財政基盤の強化

### (1)財政基盤づくり

社会福祉協議会は、地域住民に対し福祉サービスを無料または低額で提供しており地域住民にとって身近な相談機関として活動しています。この活動を継続していくためにも安定した財政基盤づくりが必要であり、町からの補助金や受託金をはじめ、住民や企業からの寄付金、介護保険等の事業収入、共同募金、日赤会費、震災における支援金などの活用においては効率的な活用に努めるとともに、新規事業における国や県、各種財団等の補助や助成事業も模索しました。

また、10月からインボイス制度が開始、1月から電子帳簿保存法改正に伴い電子データでの保存が義務付けられ対応しました。

### (2)町補助金

町の補助金は、社会福祉協議会の使命でもある「地域福祉の推進」を図るための貴重な財源であり、社協事業を継続していくためにも、社協が担っている地域福祉推進の役割や意義等について、町と協議を行いました。

	補助事業名	金額(円)
1	社協活動補助金(町)	13,500,000
2	介護予防活動組織支援事業補助金(町)	1,100,000
3	シルバー人材センター補助金(町)	1,350,000
4	災害ボランティアセンター補助金(町)(※新規)	262,008
5	緊急・一時支援事業補助金(県)	150,000
6	共同募金配分金(県共同募金会)	6,117,852

7	緊急支援助成事業補助金(県共同募金会)(※新規)	300,000
8	ボラ・サポ助成補助金(中央共同募金会)(※新規)	690,000

### (3) 受託事業

町、県社協と協議しながら必要な事業を展開しました。

	受託事業名	金額金額(円)
1	高齢者相談・地域福祉委員設置事業(町)	1,000,000
2	家族介護者交流事業(町)	450,000
3	第1層生活支援コーディネーター設置事業(町)	2,000,000
4	ふれあい交流会事業(町)	350,000
5	地域福祉の担い手及び活動支援業務(町)	700,000
6	コミュニティソーシャルワーカー配置事業(町)	19,512,000
7	心配ごと相談事業(町)	603,000
8	地域サロンコーディネーター配置事業(町)	8,517,000
9	認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業(町)	2,000,000
10	認知症地域支援・ケア向上事業(町)	5,100,000
11	認知症サポーター養成講座等事業(町)	1,300,000
12	生活福祉資金貸付事業(県社協)	30,000
13	新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付債権管理業務(県社協)(※新規)	1,870,000
14	地域福祉権利擁護事業(県社協)	731,600
15	生活困窮者自立相談支援事業(県社協)	3,000,000

### (4) 共同募金配分事業

主体的に行われる住民活動による多世代交流や新たな居場所づくりなど、子育て世代から高齢者まで、住民同士の支え合うコミュニティづくりや各種団体活動事業など、創意工夫し取り組みました。

### (5) 事業収入

介護保険事業やシルバー人材センター事業に取り組み、安定した収入確保に努めました。

- ①介護保険事業(居宅介護支援事業所)
- ②シルバー人材センター事業(公益事業会計)

### (6) 寄付金

地域福祉活動の充実を図るために香典返し寄付や一般寄付を受け付けました。

①香典返し寄付金                      162件    4,510,000円    (前年度:159件、3,675,000円)

※初盆供養:香典返し寄付者(令和4年7月～令和5年7月寄付者)に対して、町内特産品詰合せを贈りました。

町内特産品詰合せ                      143件    271,236円    (前年度:144件、252,918円)

②一般寄付金                              3件      129,000円    (前年度:6件、778,950円)

## (7) 支援金

本年度は、令和5年7月豪雨災害による災害ボランティアセンター運営のための支援金募集を行いました。

8件 891,500円

(前年度:2件、160,000円)

## (8) 日本赤十字社益城町分区事業

### ① 赤十字運動

5月に赤十字運動を実施し、日本赤十字社益城町分区として区長や赤十字地域奉仕団(婦人会)の協力を得て会費募集を行いました。

#### a. 会費募集

単位:円

	会費の種類	実績	前年度実績	比較増減
1	一般会費	3,285,700	3,253,300	32,400
2	法人会費	55,000	55,000	0
3	口座振替等	82,412	103,003	△20,591
	合計	3,423,112	3,411,303	11,809

b. 日赤事務事業費交付金収入 670,922円 (前年度:670,660円)

※日赤事務費事業費交付金支出

・車両任意保険・車検費用、区長会・奉仕団助成、事務的経費等

### ② 事業(災害支援等)

災害時において現場状況確認を行いました。

・住宅火災全壊 1ヶ所(1月17日小池)

緊急支援物資の配布はありませんでしたが、住まい確保支援を生活困窮者自立支援事業で行いました。

## (9) 熊本県共同募金会益城町共同募金委員会事業

### ① 共同募金事業

区長・民生委員・児童委員・老人クラブ等の協力を得て共同募金運動を展開しました。10月に赤い羽根共同募金、11月に歳末たすけあい募金運動を行いました。

#### a. 赤い羽根共同募金

単位:円

	募金の種類	実績	前年度実績	比較増減
1	戸別募金	3,326,500	3,354,150	△27,650
2	法人募金	1,305,234	1,300,916	4,318
3	職域募金	182,883	190,848	△7,965
4	ワッペン募金	101,930	105,139	△3,209
5	自販機	139,808	126,630	13,178



6	バッジ	74,500	40,000	34,500
7	イベント	44,747	0	44,747
8	募金箱(8ヶ所)	23,735	17,737	5,998
9	個人	5,625	37,966	△32,341
10	その他(利息)	4	2	2
	合計	5,204,966	5,173,388	31,578

b. 歳末たすけあい募金

単位:円

	募金の種類	実績	前年度実績	比較増減
1	戸別募金	2,257,100	2,257,061	39
2	竹筒募金	263,943	247,402	16,541
3	その他(利息)	1	1	0
	合計	2,521,044	2,504,464	16,580

赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金合計 7,726,010 円 (前年度:7,677,852 円)

c. 共同募金配分金収入 6,117,852 円 (前年度:5,901,759 円)

**②共同募金報告会**

地域の区長を対象に共同募金の実績報告と活用方法、令和5年度共同募金運動の協力依頼を行いました。

開催日:10月4日(金)

場所:益城町交流情報センター視聴覚室

対象者:各地域の区長 参加者:58名

内容:【報告】令和4年度共同募金及び配分事業、

令和5年度共同募金運動及び小地域活動配分金

【事業説明】災害ボランティアセンター活動